

総 説

1. はじめに

本学に入学した皆さんは、1年目に文系教養科目、英語科目、理工系教養科目、広域教養科目等の基礎教育を中心に受け、2年目からは系に所属することにより、専門の学修を進め卒業を目指していくことになります。

系所属については、入学当初から志望のはっきりしている方、入学後志望分野を決めた方もいると思いますが、皆さんの中には、志望分野をどうしようか考えている方のほうが多いのではないかと思います。

志望する系の申告にあたっては、各学院で行う「系オリエンテーション」（日程等は別途記載）に出席し、かつ、アカデミックアドバイザーの先生などとも相談し、所属を希望する系及び志望順位を決めて申告してください。本冊子はその一助として、今後の手続きの流れと、各系の紹介を掲載しています。

なお、系所属については、入学時に配布した「学修案内」にも掲載しています。本冊子と併せて熟読してください。

2. 系について

各学院の系、受入可能予定人数は、表1のとおりです。

表1 系及び受入可能予定人数

学院	系	受入可能予定人数
理学院	数学系	29
	物理学系	61
	化学系	44
	地球惑星科学系	32
工学院	機械系	144
	システム制御系	48
	電気電子系	90
	情報通信系	49
	経営工学系	62
物質理工学院	材料系	92
	応用化学系	109
情報理工学院	数理・計算科学系	37
	情報工学系	64
生命理工学院	生命理工学系	164
環境・社会理工学院	建築学系	62
	土木・環境工学系	40
	融合理工学系	45 (注)

(注) 融合理工学系においては、45から私費外国人留学生特別入試により受け入れた外国人留学生を減じた人数を、受入可能予定人数とする。

3. 系所属について

(1) 系所属の資格

系に所属するためには、本学の学士課程に1年以上在学（※休学期間は在学期間から除外されます）し、系所属に必要な科目および単位（表2）を修得し、所定の期日までに志望申告を行う必要があります。

表2 系所属に必要な単位

科目区分等		系所属に必要な単位 (下記の両者を満たすこと。)	
文系教養科目	100番台の必修科目「東工大立志プロジェクト」 2単位, 100番台の選択必修科目（人文学系, 社会科学系, 融合系から各1単位）の計4科目, 合計5単位	左記の授業科目, 計20科目, 合計23単位から 計17単位以上 を修得すること。	左記の授業科目から 計31単位以上 を修得すること。
英語科目	100番台の必修科目, 計4科目, 合計4単位		
理工系教養科目	100番台の必修科目, 計12科目, 合計14単位		
上記以外の100番台の授業科目 (ただし, 広域教養科目(国際意識醸成・広域科目)のうち 「グローバル理工人研修入門(1A~4D, 1A', 1B')」, 「多文化主義の社会学入門」, 「科学技術と社会学入門」, 「アジア交流派遣学習基礎(Tokyo Tech-AYSEAS)」, 英語科目のうち「英語海外研修 1A, 1B」, 第二外国語科目のうち「第二外国語海外研修 1A, 1B」, 教職科目の全科目, 日本語・日本文化科目の全科目を除く。)		—	

(2) 選考と決定

系への所属は、系の受入数と有資格者の成績及び志望によって決定されます。原則、所属学院の全ての系を志望順に申告することになりますが、その選考方法はおよそ次のとおりです。

系の受入数について、まず学院内の有資格者の1.1倍の数を、表1に示した各系の受入可能予定人数で比例配分（端数切捨）し、各学院及び各系の教育上の事情を考慮して定める「系最大受入人数」を算出します。系最大受入人数の100/110（端数切上）を「学院内調整人数」、10/110（端数切捨）を「学院外受入上限人数」と呼び、総得点（表3の「Ⅰ 共通得点に用いる授業科目等」及び「Ⅱ 算出式」による総得点）が高い学生の志望順位順に所属する系を決定します。

具体的には、各系の「学院内調整人数」の範囲において学院内系所属希望者を対象として所属を決定し、各系の「学院外受入上限人数」の範囲において「学院内調整人数」で所属が決定しなかった学院内系所属希望者と当該系への学院外系所属希望者を合わせて所属を決定します。

（注意）環境・社会理工学院については、A0入試の総合問題Aを受験し合格した者は建築学系に、総合問題Bを受験し合格した者は土木・環境工学系に、総合問題Cを受験し合格した者は融合理工学系に、それぞれ所属することが決定していますので、当該学生は、系所属の志望申告の手続きは不要です。※系所属するためには有資格者であることが必要です。

また、選考にあたっては、系最大受入人数を超えないこと及び学院最大受入人数（各学院の収容定員に基づき、当該年度における在学者数を踏まえて算出）を超えないものとします。なお、系所属に必要な単位を1年目に修得できなかった者は、翌年度に不足単位を修得し、改めて1年後に系所属を志望することになります。

表 3

I 共通得点に用いる授業科目等

A) 必修単位群

		授業科目	単位数
文系 教養科目	選択必修科目 (人文学)	哲学A	1
	選択必修科目 (人文学)	芸術A	1
	選択必修科目 (人文学)	文化人類学A	1
	選択必修科目 (人文学)	文学A	1
	選択必修科目 (人文学)	歴史学A	1
	選択必修科目 (人文学)	宗教学A	1
	選択必修科目 (人文学)	コミュニケーション論A	1
	選択必修科目 (人文学)	教養特論：多文化共生論	1
	選択必修科目 (人文学)	教養特論：言語と文化	1
	選択必修科目 (人文学)	外国語への招待 1	1
	選択必修科目 (人文学)	外国語への招待 2	1
	選択必修科目 (人文学)	表象文化論A	1
	選択必修科目 (人文学)	人間文化論A	1
	選択必修科目 (社会科学)	法学 (憲法) A	1
	選択必修科目 (社会科学)	法学 (民事法) A	1
	選択必修科目 (社会科学)	政治学A	1
	選択必修科目 (社会科学)	国際関係論A	1
	選択必修科目 (社会科学)	心理学A	1
	選択必修科目 (社会科学)	教育学A	1
	選択必修科目 (社会科学)	社会学A	1
	選択必修科目 (社会科学)	教養特論：現代社会の課題とコミュニケーション	1
	選択必修科目 (社会科学)	経済学A	1
	選択必修科目 (社会科学)	教養特論：ファッション論	1
	選択必修科目 (社会科学)	教養特論：東南アジア	1
	選択必修科目 (社会科学)	メディア論A	1
	選択必修科目 (融合)	統計学A	1
	選択必修科目 (融合)	科学史A	1
	選択必修科目 (融合)	技術史A	1
	選択必修科目 (融合)	科学技術社会論・科学技術政策A	1
	選択必修科目 (融合)	科学技術倫理A	1
	選択必修科目 (融合)	科学哲学A	1
	選択必修科目 (融合)	社会モデリングA	1
	選択必修科目 (融合)	意思決定論A	1
選択必修科目 (融合)	言語学A	1	
選択必修科目 (融合)	学びのデザイン	1	
選択必修科目 (融合)	教養特論：技術と美術の哲学	1	
選択必修科目 (融合)	教養特論：ミュージアムから学ぶ科学・技術・文化コミュニケーション	1	
選択必修科目 (融合)	教養特論：未来社会デザイン入門	1	
英語科目	必修科目	英語第一	1
	必修科目	英語第二	1
	必修科目	英語第三	1
	必修科目	英語第四	1
教養科目 理工系	必修科目	微分積分学第一・演習	2
	必修科目	線形代数学第一・演習	2
	必修科目	力学基礎 1	1
	必修科目	力学基礎 2	1
	必修科目	電磁気学基礎 1	1

授業科目		単位数
必修科目	電磁気学基礎 2	1
必修科目	無機化学基礎	1
必修科目	有機化学基礎	1
必修科目	量子化学基礎	1
必修科目	化学熱力学基礎	1
必修科目	生命科学基礎第一 1	1
必修科目	生命科学基礎第一 2	1

B) 選択単位群

授業科目		単位数
文系 教養科目	人文学系ゼミ（自分発見、社会・文化・人間探求セッション）導入 1	2
	人文学系ゼミ（自分発見、社会・文化・人間探求セッション）導入 2	2
	人文学系ゼミ（参加と協働と至福の場づくり）導入 1	2
	人文学系ゼミ（参加と協働と至福の場づくり）導入 2	2
	人文学系ゼミ（創造と思考のレッスン）導入 1	2
	人文学系ゼミ（創造と思考のレッスン）導入 2	2
	人文学系ゼミ（現代宗教／スピリチュアリティ論）導入 1	2
	人文学系ゼミ（現代宗教／スピリチュアリティ論）導入 2	2
	人文学系ゼミ（博物館と歴史学）導入 1	2
	人文学系ゼミ（博物館と歴史学）導入 2	2
	社会科学系ゼミ（法学ゼミ）導入 1	2
	社会科学系ゼミ（法学ゼミ）導入 2	2
	社会科学系ゼミ（政策とメディアの社会学）導入 1	2
	社会科学系ゼミ（政策とメディアの社会学）導入 2	2
	社会科学系ゼミ（日米関係と沖縄）導入 1	2
	社会科学系ゼミ（日米関係と沖縄）導入 2	2
	社会科学系ゼミ（心理学）導入 1	2
	社会科学系ゼミ（心理学）導入 2	2
	社会科学系ゼミ（政治と社会）導入 1	2
	社会科学系ゼミ（政治と社会）導入 2	2
融合系ゼミ（意思決定論）導入 1	2	
融合系ゼミ（意思決定論）導入 2	2	
融合系ゼミ（社会科学への量的アプローチ入門）導入 1	2	
融合系ゼミ（社会科学への量的アプローチ入門）導入 2	2	
英語科目	英語スピーキング演習第一	1
	英語スピーキング演習第二	1
	英語スピーキング演習第三	1
	英語スピーキング演習第四	1
	英語プレゼンテーション演習第一	1
	英語プレゼンテーション演習第二	1
	英語プレゼンテーション演習第三	1
	英語プレゼンテーション演習第四	1
	TOEFL 対策セミナー（リスニング&スピーキング）第一	1
	TOEFL 対策セミナー（リスニング&スピーキング）第二	1
	TOEFL 対策セミナー（リスニング&スピーキング）第三	1
	TOEFL 対策セミナー（リスニング&スピーキング）第四	1
	TOEFL 対策セミナー（リーディング&ライティング）第一	1
	TOEFL 対策セミナー（リーディング&ライティング）第二	1
	TOEFL 対策セミナー（リーディング&ライティング）第三	1
	TOEFL 対策セミナー（リーディング&ライティング）第四	1
	TOEIC 対策セミナー第一	1
	TOEIC 対策セミナー第二	1
TOEIC 対策セミナー第三	1	
TOEIC 対策セミナー第四	1	

		授業科目	単位数
		英語スピーキング演習 GI	2
		英語スピーキング演習 GII	2
教養科目 広域		健康科学概論	1
		ウェルネス実習	1
		生涯ウェルネス実習	1
		健康科学演習	1
		グローバル理工人入門	2
理工系教養科目		微分積分学第二	2
		線形代数学第二	2
		微分積分学演習第二	1
		線形代数学演習第二	1
		物理学演習第一	1
		物理学演習第二	1
		物理学実験第一	1
		物理学実験第二	1
		化学実験第一	2
		化学実験第二	2
		生命科学基礎第二 1	1
		生命科学基礎第二 2	1
		生命科学基礎実験	1
		宇宙地球科学A	2
		宇宙地球科学B	2
		宇宙地球科学基礎ラボ (地球物理)	1
		宇宙地球科学基礎ラボ (地球物質)	1
		宇宙地球科学基礎ラボ (天文宇宙)	1
		図形科学と CG1	1
		図形科学と CG2	1
		図学・図形デザイン第一	2
		図学・図形デザイン第二	2
		図学製図	1
		情報リテラシ第一	1
		情報リテラシ第二	1
		コンピュータサイエンス第一	1
		コンピュータサイエンス第二	1
		環境安全論	1
	ものづくり	2	
専門科目		科学・技術の創造プロセス【理学院】	1
		科学・技術の創造プロセス【工学院】	1
		科学・技術の創造プロセス【物質理工学院】	1
		科学・技術の創造プロセス【情報理工学院】	1
		科学・技術の創造プロセス【生命理工学院】	1
		科学・技術の創造プロセス【環境・社会理工学院】	1
		理学院リテラシ	1
		理学院専門基礎	2
		工学リテラシーI	1
		工学リテラシーII	1
		工学リテラシーIII	1
		工学リテラシーIV	1
		物質理工学リテラシ	1
		物質理工学概論 A	1
		物質理工学概論 B	1
		物質理工学概論 C	1
		情報理工学リテラシー	1
		情報理工学基礎 1	1

授業科目		単位数
	情報理工学基礎 2	1
	情報理工学基礎 3	1
	最先端生命研究概論【生命理工学院】	1
	バイオものづくり 1【生命理工学院】	1
	バイオものづくり 2【生命理工学院】	1
	国際バイオ創造設計【生命理工学院】	1
	環境・社会理工学院リテラシ	1
	環境・社会理工学院専門基礎 1	1
	環境・社会理工学院専門基礎 2	1
	環境・社会理工学院専門基礎 3	1

C) その他 (TOEFL 等)

TOEFL (iBT, ITP) テストのスコア及び TOEIC (公開, IP) テストのスコアを有している場合は、以下の換算式をもって成績 (点数) とみなし、実用英語技能認定試験 (以下「英検」という。) 1 級を有している場合は、100 点の成績とみなす。

- ・ TOEFL iBT テスト : $\text{スコア} = \text{成績}$
 ※100 を超えるスコアの場合は 100 とする。
- ・ TOEFL ITP テスト : $(\text{スコア} - 500) / 2.5 + 60 = \text{成績}$ (小数点以下切捨)
 ※換算の結果, 100 を超えた場合は 100 とする。
- ・ TOEIC (公開, IP) テスト : $(\text{スコア} - 600) / 6.875 + 60 = \text{成績}$ (小数点以下切捨)
 ※換算の結果, 100 を超えた場合は 100 とする。

- (1) TOEFL iBT テスト, TOEFL ITP テスト, TOEIC 公開テスト, TOEIC IP テスト又は英検 1 級 (以下「TOEFL 等」という。) のうちいずれか一つを用いることができるものとし、総得点の算出においては、1 単位として取扱う。
- (2) 上記の取扱いを希望する者は、TOEFL (iBT, ITP) テストについてはスコアレポート, TOEIC 公開テストについては公式認定証, TOEIC IP テストについてはスコアレポート, 英検 1 級については合格証明書を、所定の様式と共に当該年の令和 3 年 2 月 5 日 (金) までに教務課へ提出しなければならない。(※TOEFL (iBT, ITP) 及び TOEIC (公開, IP) のスコアについては、当該年の 1 月末日において受験日から 2 年以内のものに限る。)

II 算出式

I (A) 必修単位群及び (B) 選択単位群の授業科目については、「成績×単位数」として得点を算出する。総得点の算出においては、「(A) 必修単位群の授業科目の成績上位 17 単位」(以下「必修上位 17 単位」という。) の得点合計値と、「必修上位 17 単位以外の (A) 必修単位群の授業科目の成績, (B) 選択単位群の授業科目の成績及び (C) その他 (TOEFL 等) の成績の上位 14 単位」(以下「選択等上位 14 単位」という。) の得点合計値を足した値を総得点とする。(最大 3,100 点)

$$\text{総得点} = \text{必修上位 17 単位の得点合計値} + \text{選択等上位 14 単位の得点合計値}$$

(注 1) : 総得点の対象とする成績は、0 点～100 点です。(よって不合格点の科目も用いられます。)

(注 2) : 必修上位 17 単位のうち、文系教養科目は成績の高得点順に最大 3 単位まで総得点に用いることができます。

(注3)：必修上位17単位の成績上位から数えて17単位目が2単位の授業科目だった場合は、1単位として扱うとともに、当該授業科目は、必修上位17単位以外の必修単位の授業科目の1単位の成績としても扱います。また、選択等上位14単位の成績上位から数えて14単位目が2単位の授業科目だった場合は、1単位として扱います。

(注4)：Iの(C)によるTOEFL等の成績を用いる場合は、(A)必修単位群の英語第一、英語第二、英語第三及び英語第四と合わせ、そのうち成績上位4位までを用いることができます。(最大400点)

(注5)：Iの(B)のうち、「ウェルネス実習」と「生涯ウェルネス実習」の2科目を履修した場合は、そのうち成績上位1科目のみを用いることができます。

(注6)：Iの(A)及び(B)の表では、総得点の対象となる科目のうち、2019年度以前に開講され2020年度以降に開講されない科目については記載を省略しています。

(注7)：旧課程の科目(科目コードがZで始まる科目(例：ZMA.C101等))は系所属には用いません。

【総得点に用いる授業科目等について補足】

- ・不合格(59点以下)の科目でも、総得点に用いる授業科目であれば総得点としてカウントされます。
- ・文系教養科目の選択必修科目は人文学系・社会科学系・融合系の3つの区分から各1単位までについては、系所属に必要な単位数「必修科目等23単位から17単位以上」に含めることができます。仮に、留年等により同じ区分から2単位以上修得した場合は、系所属に必要な単位数「全体で31単位以上」の方に含まれることとなります。この取り扱いも総得点においても同様であり、同じ区分から2単位以上修得した場合、2単位目以降は「(A)必修単位群」ではなく「(B)選択単位群」に用いることとなります。
- ・合否判定の科目：東工大立志プロジェクト、科学技術の最前線は、総得点には用いません。

(3) 所属学院以外への系所属

所属学院(入学時の学院)内の系を希望することが原則ですが、もし所属学院以外の系に所属することを希望する場合は、次により取り扱われます。(学院外系所属)

- ・志望することができる学院外の系は1系のみ。
- ・所属している学院から学院外の系に所属することができる人数は、所属している学院の有資格者の10/100まで(端数切捨)。希望者がそれを超過する場合は、総得点が高い者から順に選考。
- ・志望する系において学院外の者を受け入れることができる人数は、当該系の学院外受入上限人数まで。なお、学院外系所属を希望する場合は、志望申告をする前に初年次担当主任の承認を得ることが必要です。

(4) 一旦所属した系の変更について(転系)

系に所属した後、他の系への所属を希望する場合は、学院長の許可を得た上で、本学に入学後、系所属していないものとして系所属をやり直すことにより転系できることがあります。

また、転系を志望する系における受入れ及び当該系を置く学院の収容定員に特に余裕が有り、かつ、志望する系を置く学院及び転系希望者が所属する学院の教授会において学修状況等を審査の上、転系が許可されることがあります。

転系希望者は所定の期日までに関係系主任の許可を得た上で、所属学院の学院長（受付は教務課）に願い出る必要があります。転系を希望する場合は、事前にアカデミック・アドバイザーや関係系主任とよく相談してください。なお、学期の途中で転系することはできません。

4. 手続きの流れ

(11月頃予定)

① 系所属予備調査（全員）

○教務Webシステムにより「令和3年系所属志望申告（予備調査）」を登録

系への所属志望状況の実態を把握するため、予備調査を実施します。予備調査は、皆さんが系の所属志望を申告する際の参考資料にするためのものですので、後日掲示等でお知らせする期日までに必ず登録してください。

この予備調査の結果（志望状況）は12月中～下旬頃にHP上で公開予定です。

(1月頃～3月上旬まで予定)

② 系所属志望申告（全員）

○教務Webシステムにより「令和3年系所属志望申告」を登録

系の所属志望申告です。後日掲示等でお知らせする指定期間内に申告が必要です。限られた日時のみですので、必ず申告期限までに申告してください。この申告を行わない学生は「系所属の意思なし」として扱うため系に所属できません。また、当該申告は、申告期限後の訂正は一切できませんので、注意してください。

なお、後学期の成績は3月上旬に教務Webシステム上で開示予定です。

また、所属決定の発表は3月末日に行う予定です。

皆さんが第1志望の系に所属できることが望ましいですが、定員及び成績等の事情により、志望順位の低い系に所属する場合があります。

③ その他の手続き（希望者のみ）

(1月中旬頃～3月上旬までを予定)

(1) 『学院外系所属許可願』の提出（学院外への系所属を希望する場合のみ）

(2) 『希望留年許可願※』の提出（希望留年を志望する場合のみ）

(1)(2)ともに教務Webシステムより必要な書類をダウンロードし、初年次担当主任の承諾を得た上で、3月の所定の期日（掲示で後日周知します）までに教務課学務グループへ提出してください。

※希望留年：基本的に所属する学院の全ての系について志望順位を決めて申告する必要がありますが、どうしても特定の系にしか行きたくない場合には一部の系のみ志望することができる仕組みです。ただし、志望した系のいずれにも行けなかったときは、学院に所属したまま（留年）となります。

(1 1月～2月)

(3) TOEFL 等試験の成績(点数)の申請(申請を希望する場合のみ)

TOEFL 等のスコア等については、「系所属にかかる総得点の成績(点数)」とすることができます。
希望する場合は、申請書に所定のスコアレポート等(p.6(2)参照)の原本(コピーは不可)を添えて、
指定の期日までに申請してください(オンラインのスコア確認や可否確認画面は、申請には使用できません)。

なお、スコアレポート等を紛失等した場合は、適宜発行元に再発行を依頼する等し、期限内に提出
できるよう準備してください(TOEFL ITP については再発行の制度がありませんので注意してください。
本学教務課が大学負担で実施する TOEFL ITP のスコアレポートを紛失した場合は、事前に教務
課に相談してください。)

TOEFL 等試験の成績(点数)を用いたい場合の手続き日程

○申請書の配布：令和2年11月6日(金)から教務課にて配布予定

○申請期間：配布開始日から令和3年2月5日(金)17:15まで(厳守)

○申請書及びスコアレポート等提出先：教務課学務グループ

(注) TOEFL (iBT, ITP) 及び TOEIC (公開, IP) のスコアについて、令和3年4月の系所属においては
平成31年2月1日から令和3年1月31日までの間に受験したものに限りです。

(その他系所属に係る注意点)

- ※ 日程等の詳細は掲示等でお知らせします。
- ※ 日程等は変更することがありますので、掲示や大学からのメールには十分注意してください。
- ※ 入学時に所属系が決定している外国人留学生及びAO入試において環境・社会理工学院の総合問題A・B・Cを受験し合格した学生は、①～③の系所属の手続きは必要ありません。